

横浜市都市美対策審議会 景観審査部会

「まちを楽しむ多彩な交通の充実」に向けた提案に基づく

(仮称) 横浜ロープウェイ プロジェクト 《YOKOHAMA AIR CABIN》

～景観形成について～

2019年 3月19日

 泉陽興業株式会社

これまでに形成されてきた景観に調和し、融合することを基本としつつ、新たな交通として先進的なイメージが感じられ、景観の魅力がさらに高まるようなデザイン。



YOKOHAMA AIR CABIN

“AIR(空気)”感を体現する “Form(形状)” “Color(色彩)”
 空気感・上昇感・浮遊感・透明感・軽快感

当社内および設計事務所のデザインチームが本プロジェクトに取り組み、これまで検討を続けてきています。

浮遊感

ロープウェイの持つ浮遊感を表現
 (線のグラデーション)

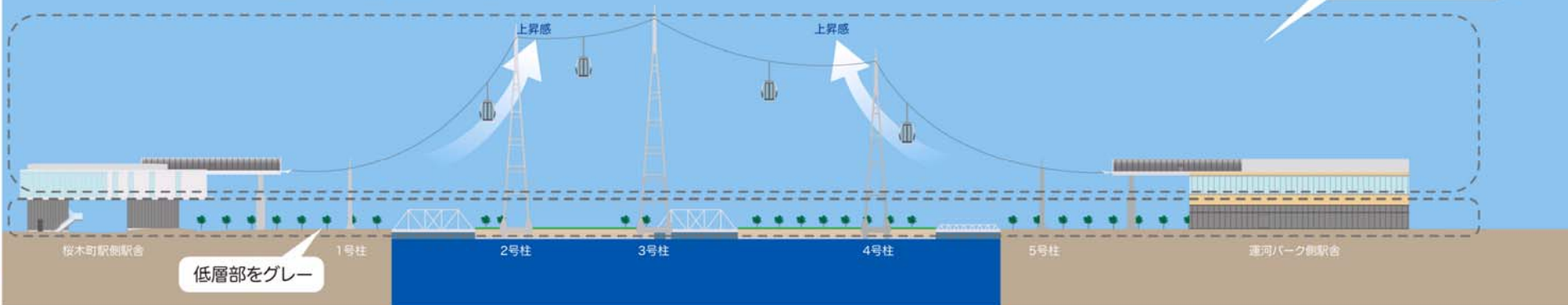
安定感

YOKOHAMA AIR CABIN DESIGN CONCEPT

“未来”と“過去”をつなげる移動空間を演出

全体を無彩色によるグラデーションを用いたモダンなデザインとし、みなとみらい21新港地区から中央地区に向かって白からグレーと変化させ、各地区の街並みに調和した色彩を取りいれつつ、低層部にグレーを用いることで、上層部が軽やかに浮いたような印象を与え、全体でAIR感を表現している。

全体の明度を上げて
 上昇感を表現



先進性

(みなとみらい21 中央地区)

白～グレー系

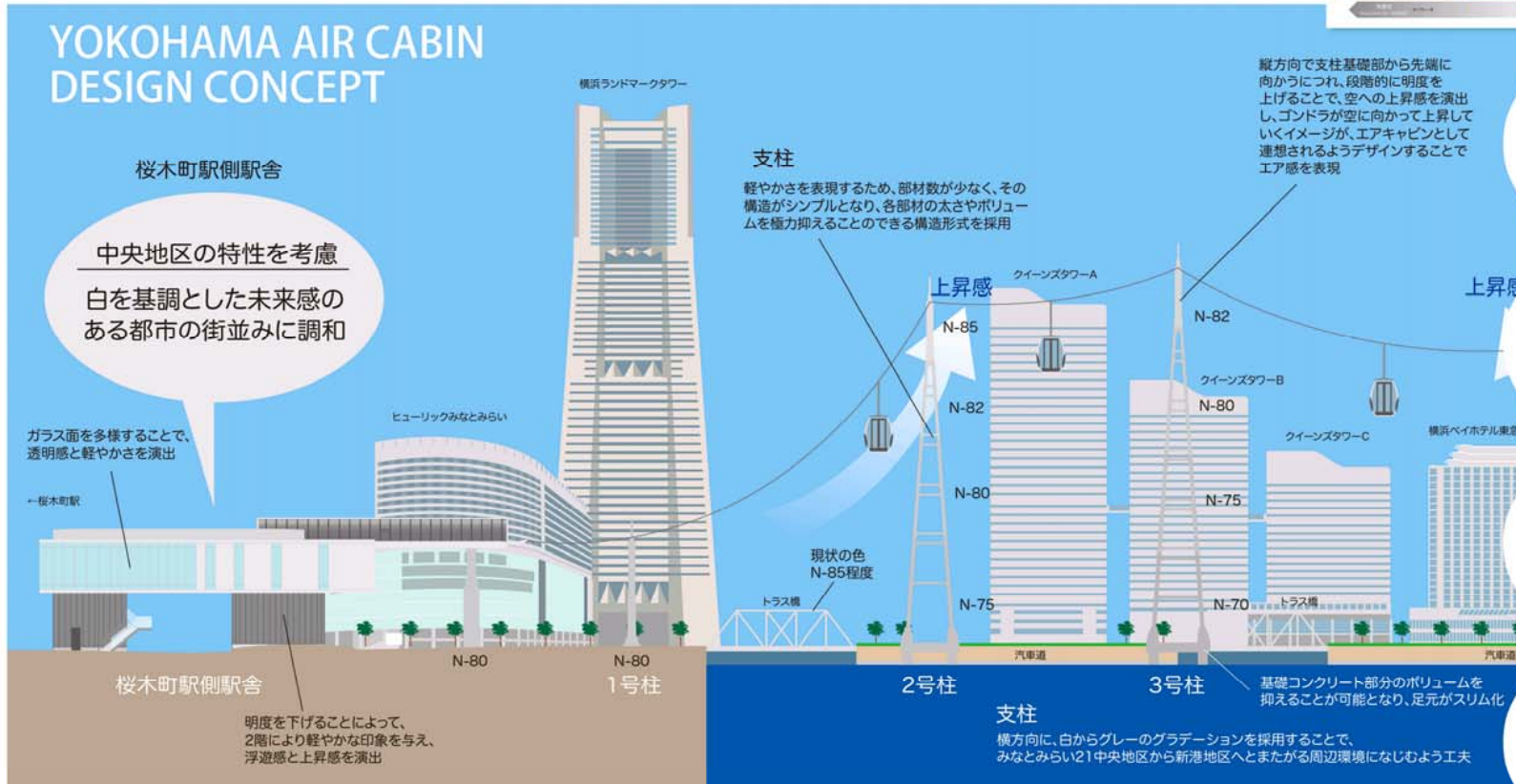
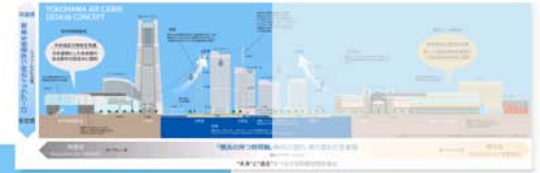
「横浜の持つ時間軸」時代の流れ、まちの移り変わりを表現

(横のグラデーション)

茶～ベージュ系

歴史性

(みなとみらい21 新港地区)

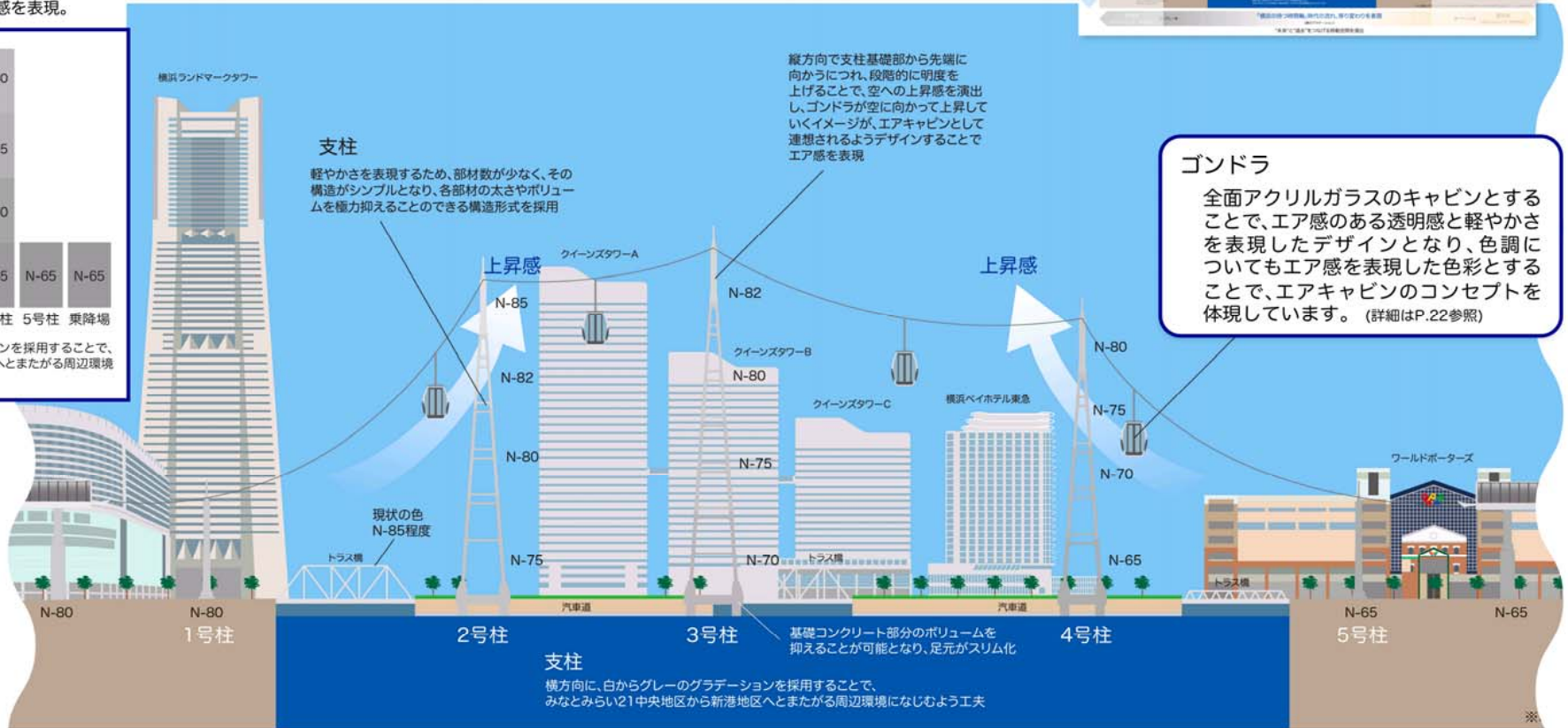
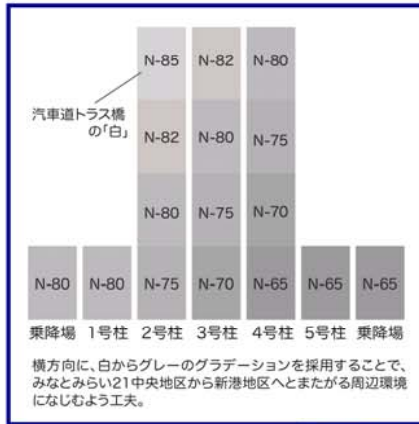


桜木町駅側駅舎

駅舎2階の壁面について、ガラス面を多用することで透明感と軽やかさを演出。
さらに1階部分の明度を下げることによって、2階により軽やかな印象を与え、浮遊感と上昇感を演出しています。
中央地区の周囲の景観に調和するよう、他の建物の外壁同様、白〜グレーを採用したデザインとしています。

支柱の色彩の考え方

縦方向で支柱基礎部から先端に向かうにつれ、段階的に明度を上げることで、空への上昇感を演出し、ゴンドラが空に向かって上昇していくイメージが、エアキャビンとして連想されるようデザインすることでエア感を表現。



支柱

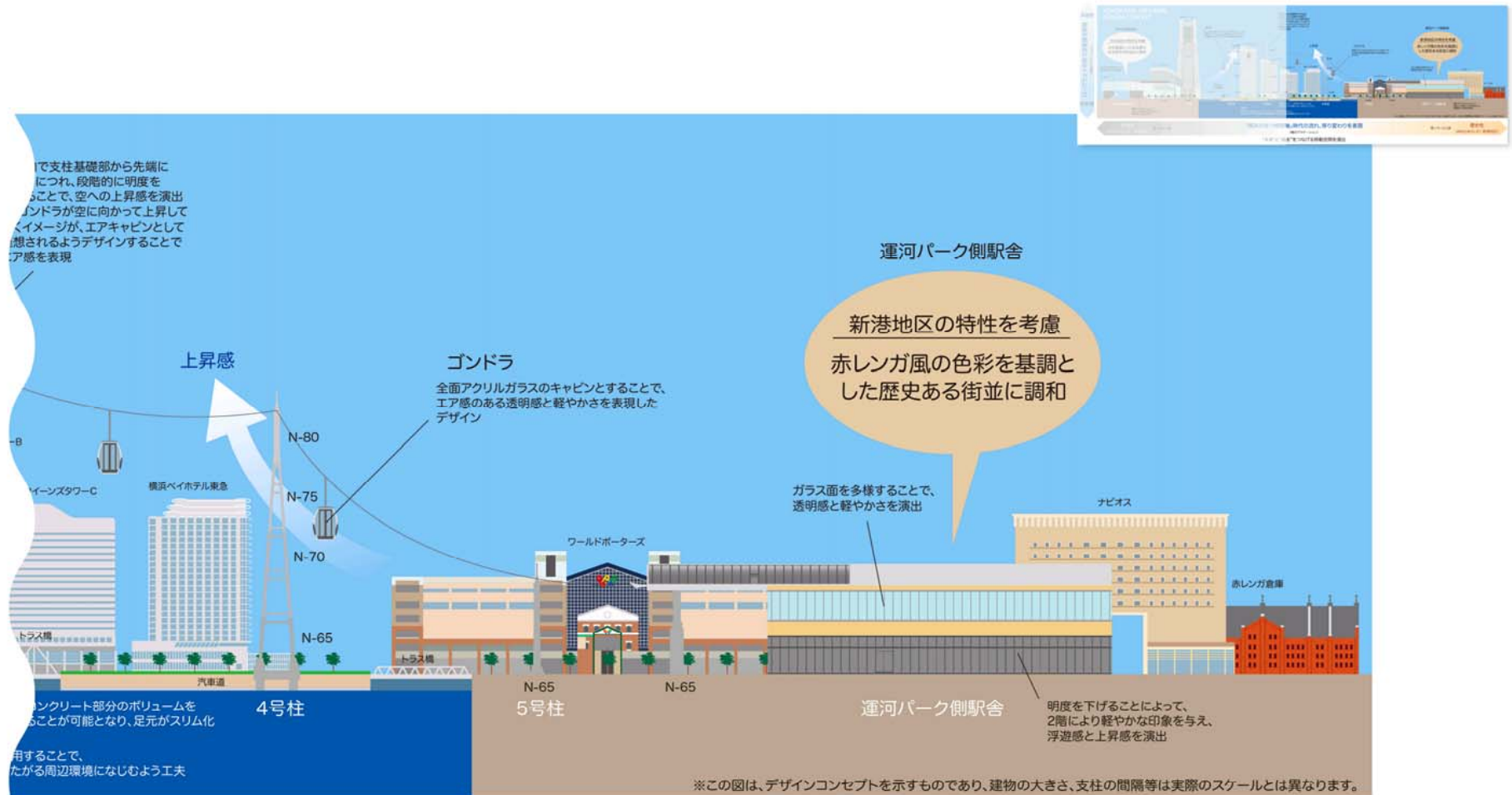
支柱の構造は安全を第一に考えていることは言うまでもありませんが、軽やかさを表現するため部材数が少なく、その構成がシンプルとなり、各部材の太さやボリュームを極力抑えることのできる構造形式を採用しています。

部材のみならず、同形式を採用することにより、通常では土木構造物然としてしまうような支柱基礎のコンクリート部分のボリュームを抑えることが可能となり、足元をスリム化することによって支柱全体に軽やかさが生まれ、スッキリとした印象を与えています。

さらに支柱・基礎のボリュームを抑えることによって見通しが良くなり、水上交通の航行の安全にも大きなメリットがあります。

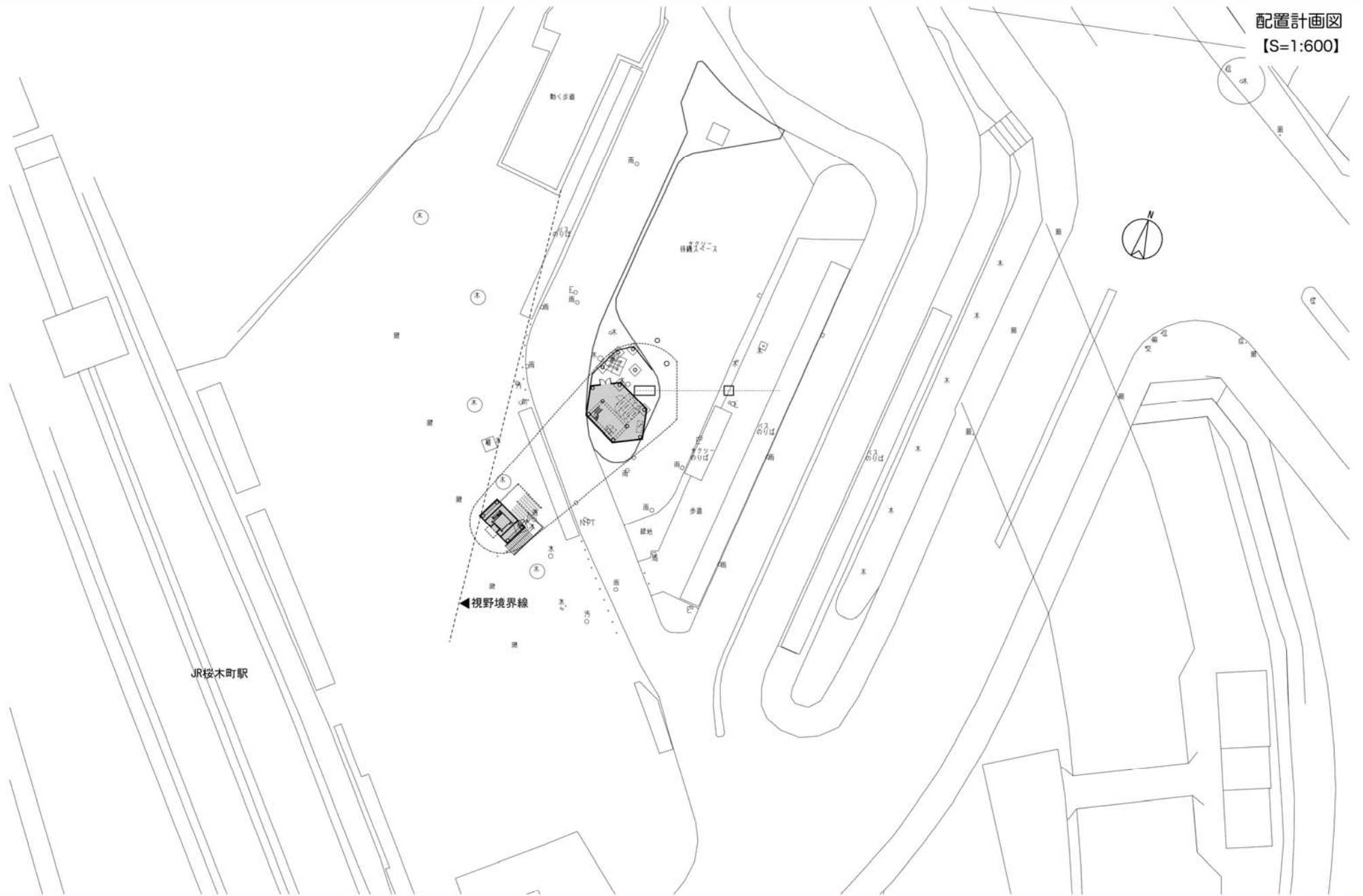
また色彩については支柱基礎部から先端に向かうにつれて段階的に明度を上げることで空への上昇感を演出し、ゴンドラが空に向かって上昇していくイメージが、“YOKOHAMA AIR CABIN”の“エア感”を連想させるようデザインしています。

またゴンドラ乗降場の屋根(フライルーフ)も含めて白からグレーのグラデーションを採用することで、みなとみらい21中央地区から新港地区へとまたがる周辺環境にもなじむ工夫としています。

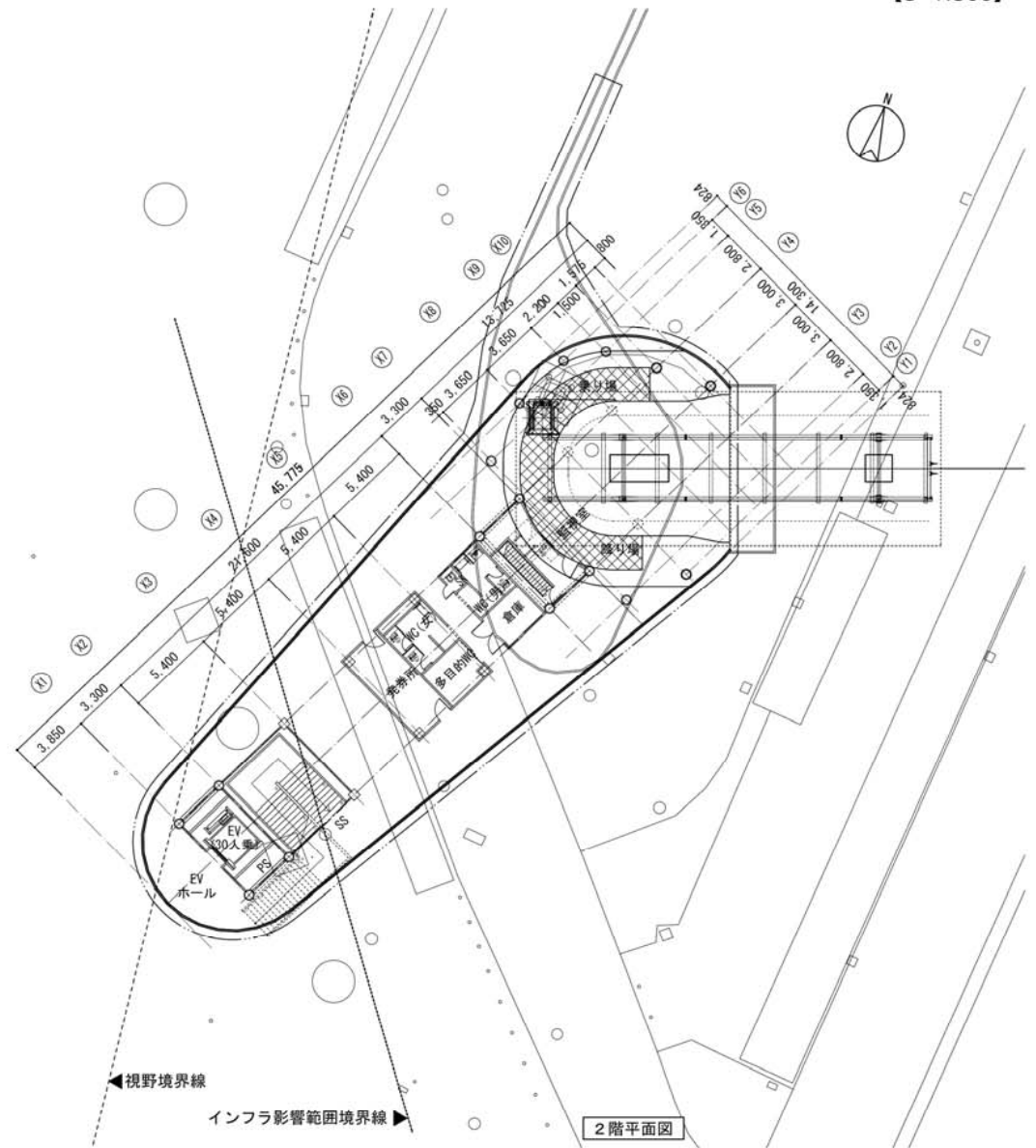
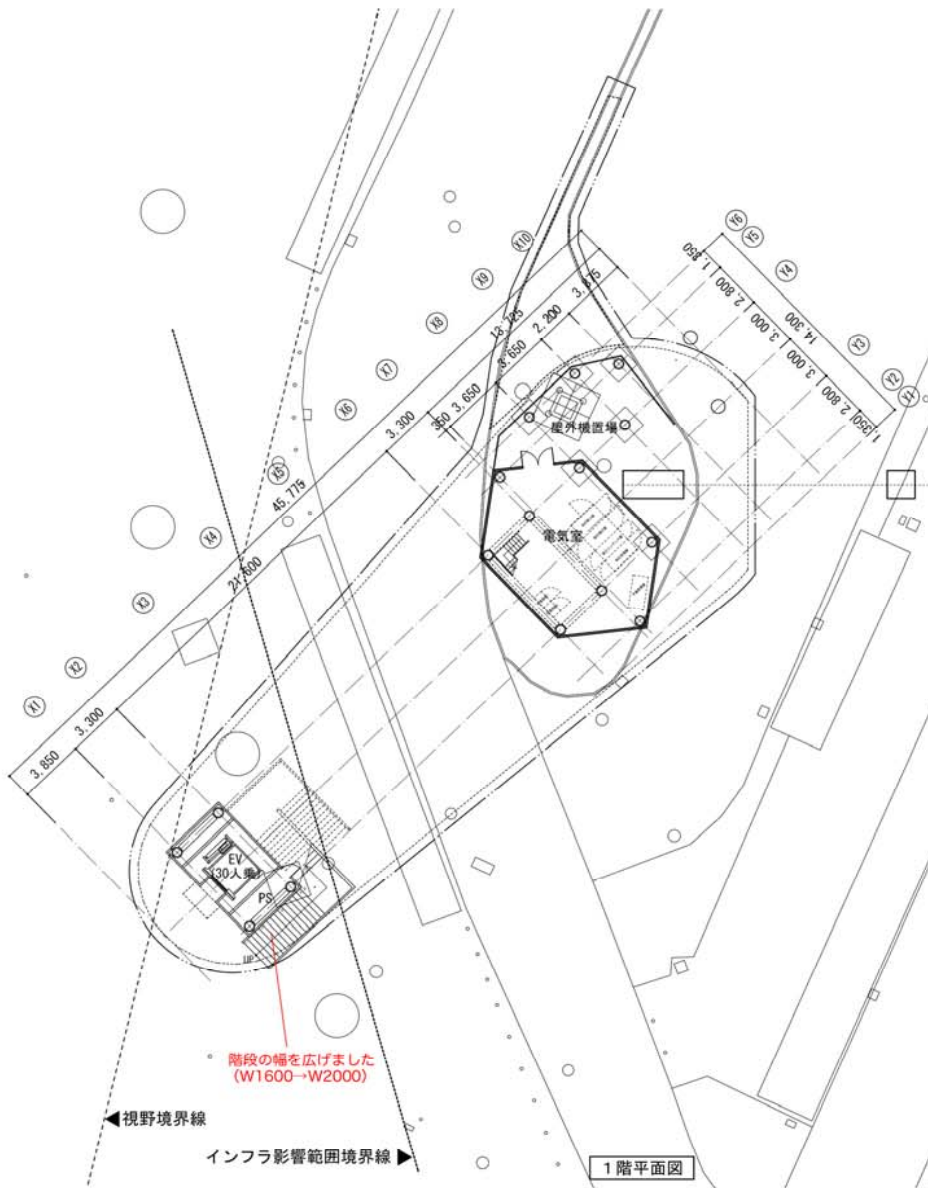


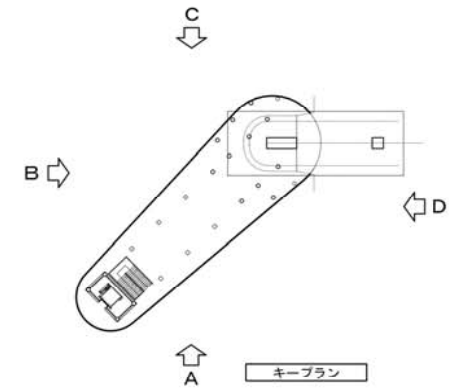
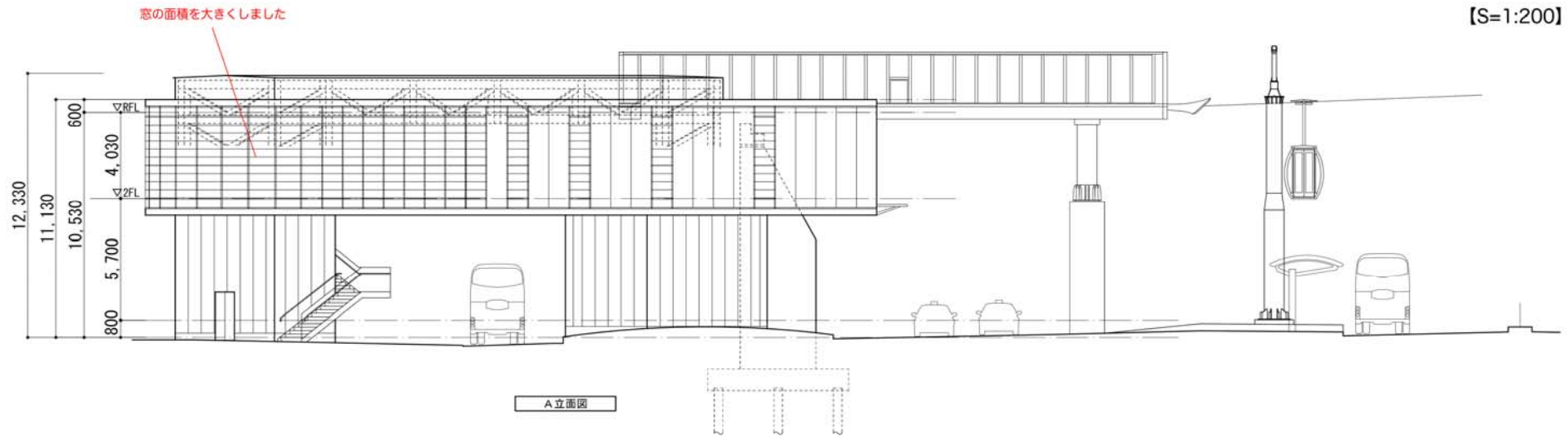
運河パーク側駅舎

桜木町側駅舎と同様に、駅舎2階の壁面についてガラス面を多用し、さらに1階の公園に面した壁も大きくガラス面とすることで、透明感と軽やかさを演出。
 1階部分の明度を下げることによって、2階により軽やかな印象を与え、浮遊感と上昇感を演出しています。
 新港地区の周囲の景観に調和するよう、ベースは無彩色としながら、他の建物の外壁同様、ベージュ系を採用したデザインとしています。



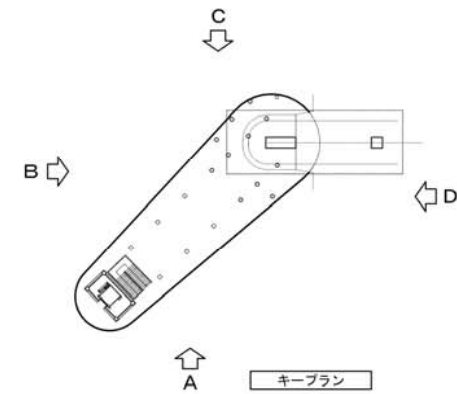
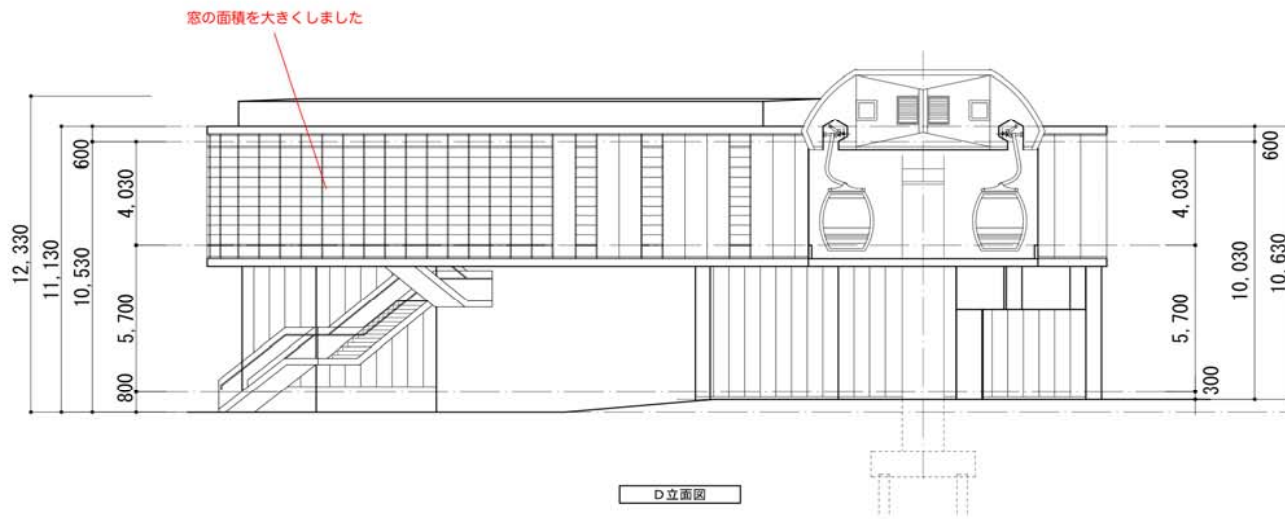
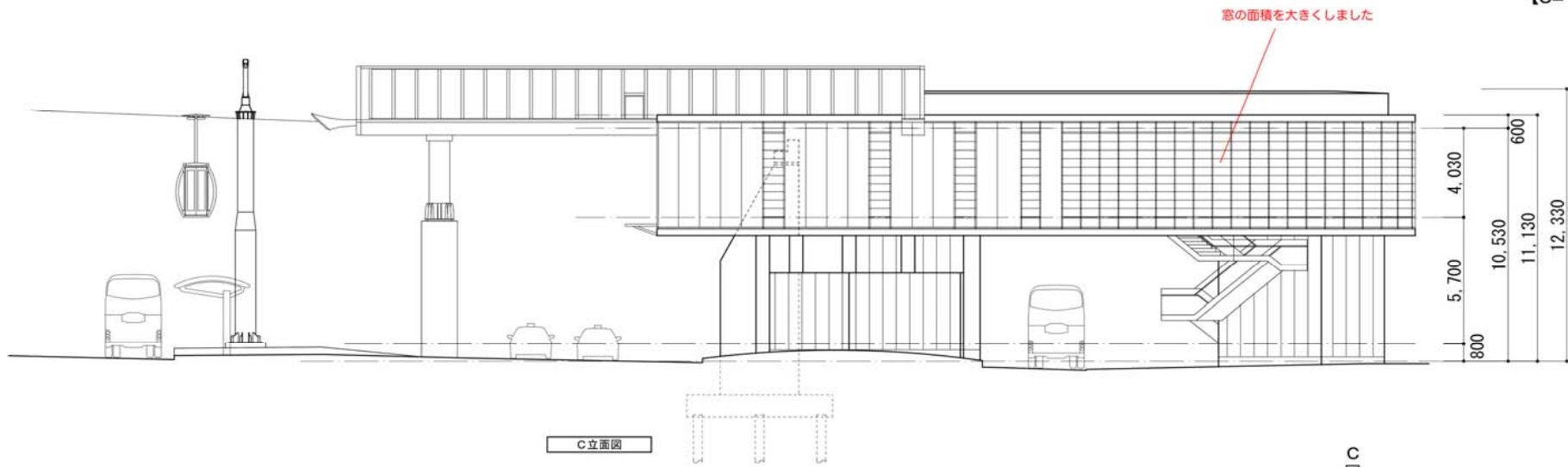
配置計画図
【S=1:600】





駅舎立面計画図-②

【S=1:200】



変更後



変更前



屋根上部のバラベット部分の色をグレーとし、
またリブ(縦スリット)を入れ、表情に変化を持たせました。

変更後



2Fのガラス窓部分を広く取り、駅舎の向こう側の景色を
ガラス越しに見えやすくするようにしました。

フライルーフの“妻面”の色を壁面と同じ色にし、
駅舎との一体感を高めました。

変更前



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。

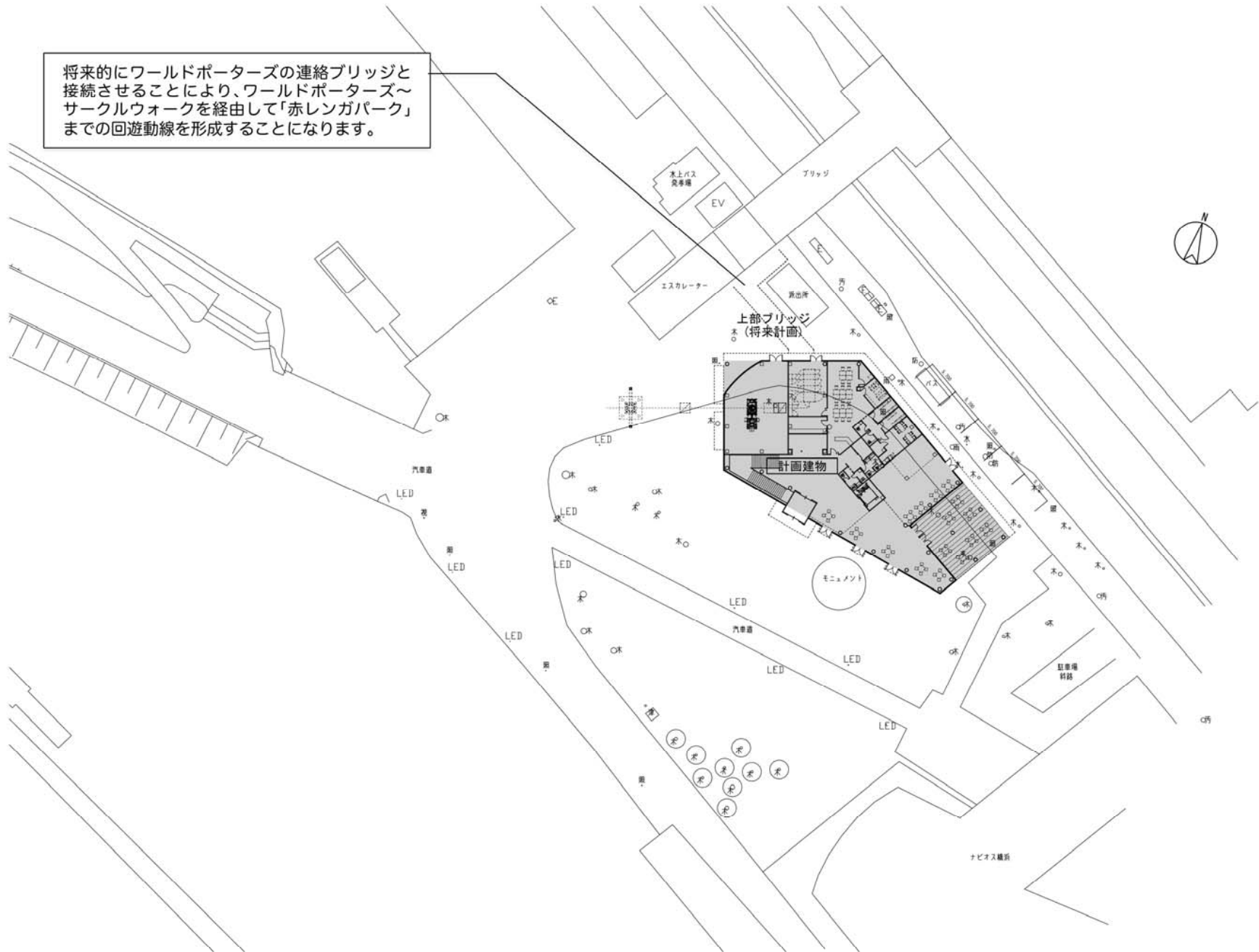


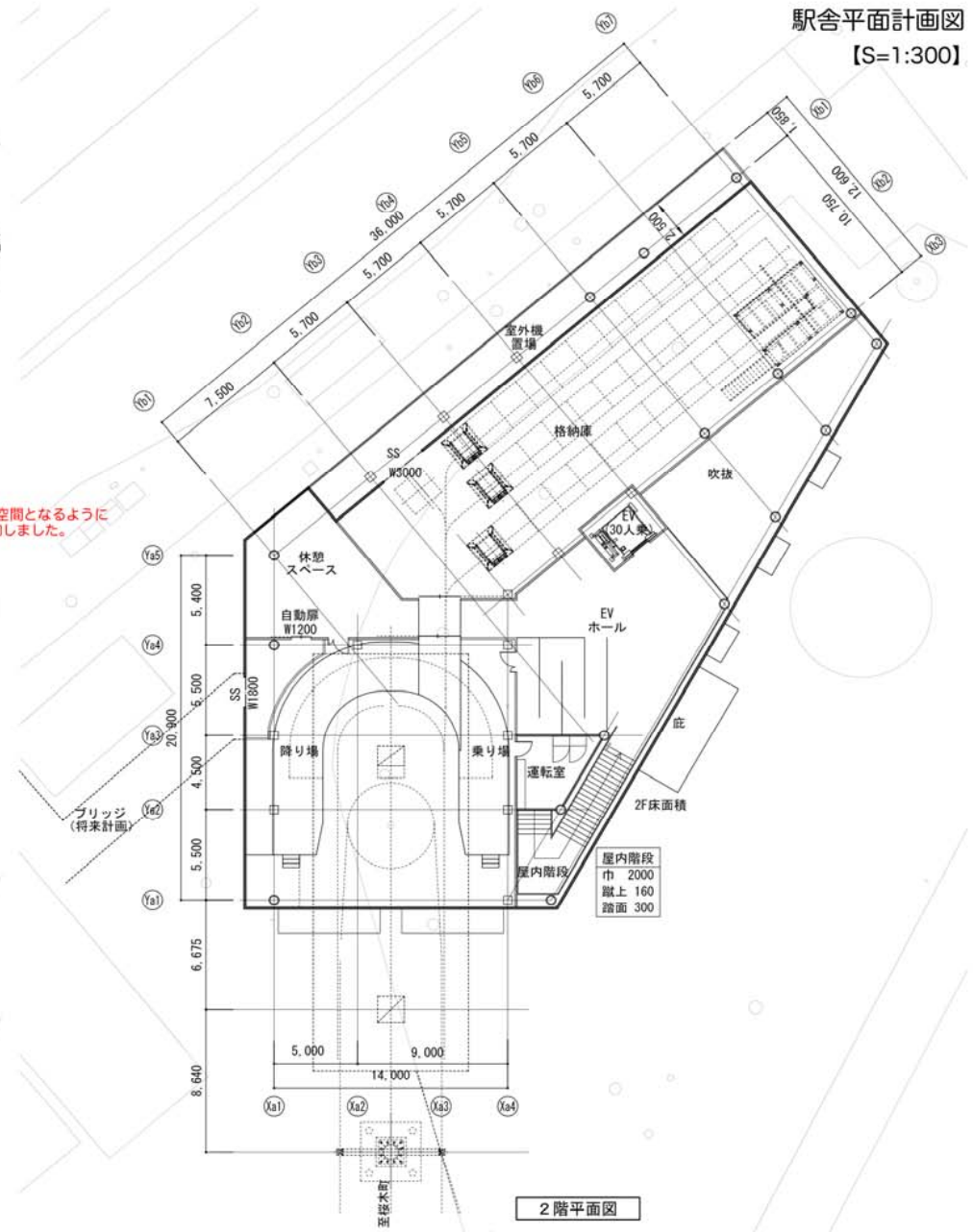
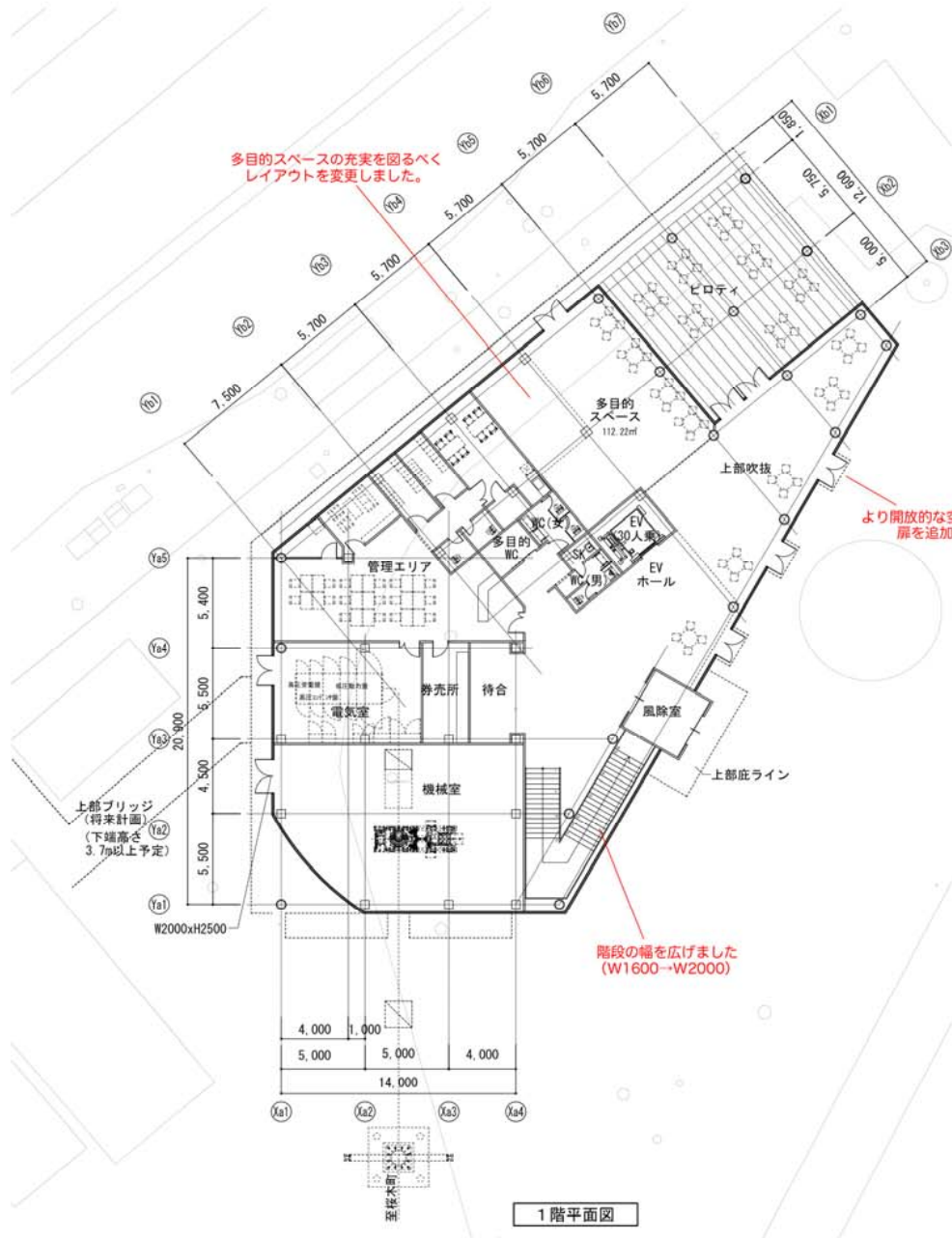
本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。

将来的にワールドポーターズの連絡ブリッジと接続させることにより、ワールドポーターズ～サークルウォークを経由して「赤レンガパーク」までの回遊動線を形成することになります。



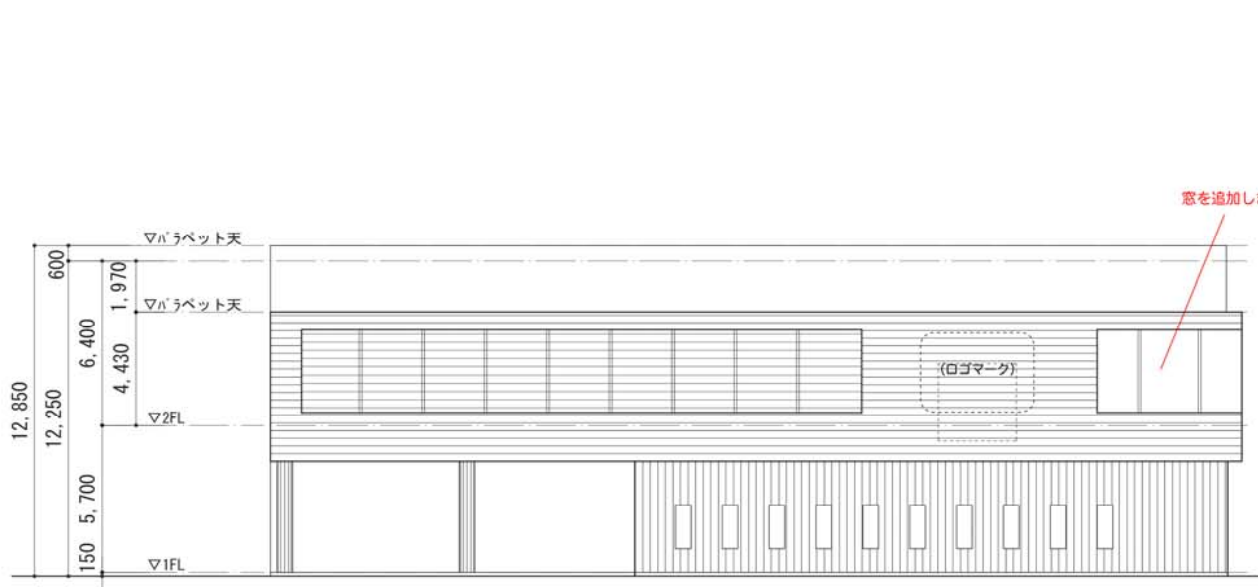


駅舎立面計画図-①

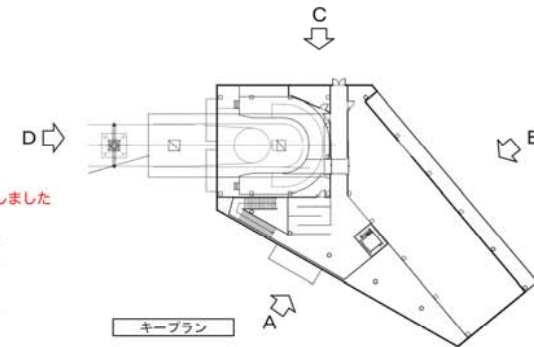
【S=1:200】



A立面図

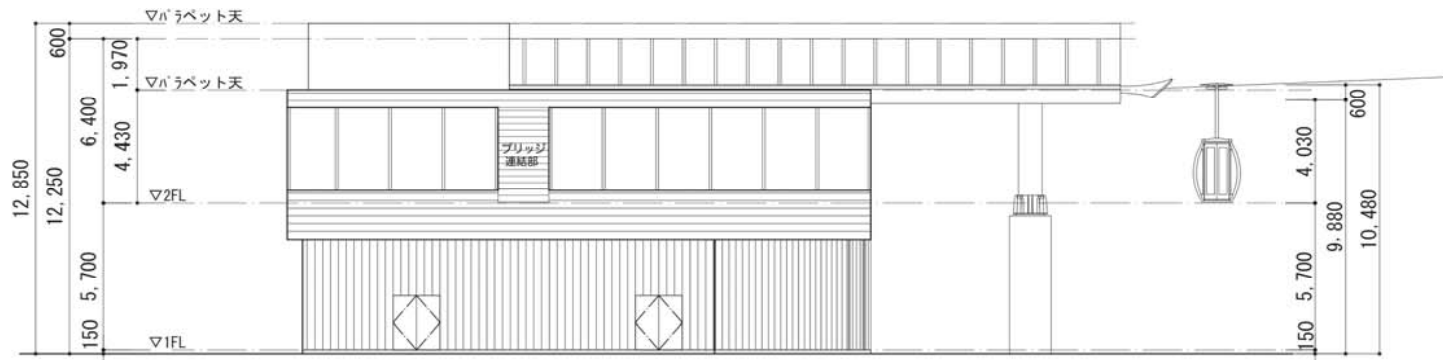


B立面図

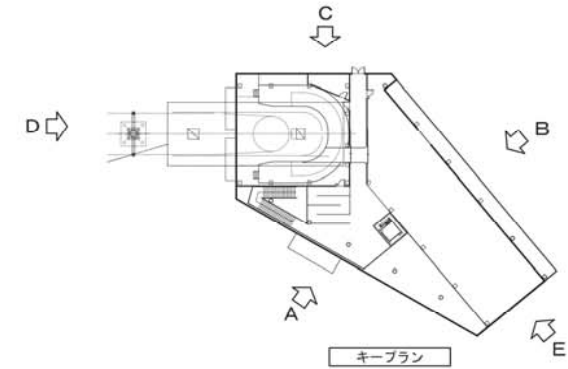


駅舎立面計画図-②

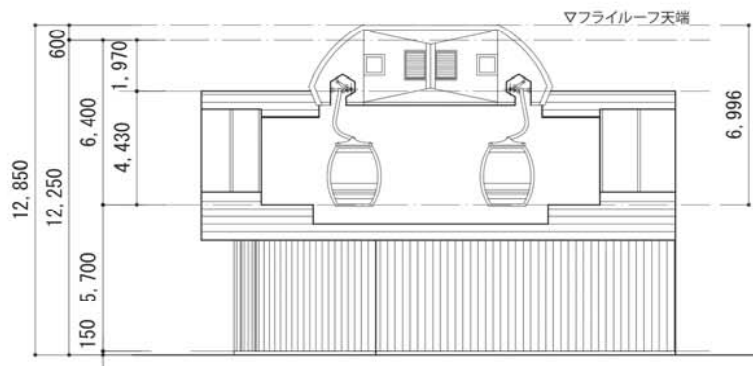
[S=1:200]



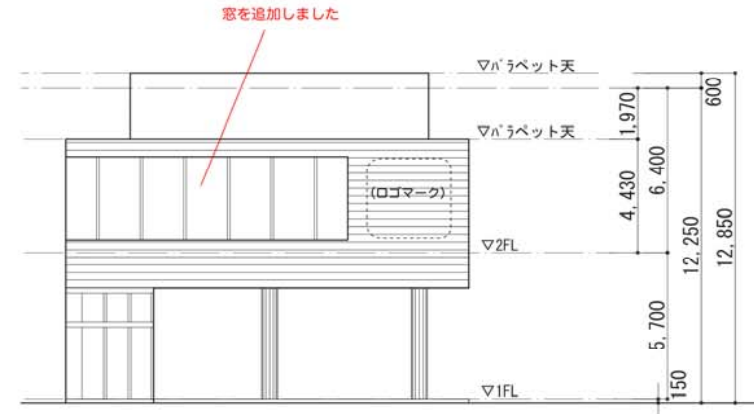
C立面図



キープラン



D立面図



E立面図

《 Plan-A 》

変更前



(参考写真：横浜水上警察所新港町交番)

屋根上部のバラベツ部分にリップ(縦スリット)を入れ、表情に変化を持たせました。

フライルーフのバラベツ部分を2F壁面と同色にし、駅舎との一体感を持たせました。

2F窓面をより大きく取り、さらに軽快さを表現しました。

2F部分の壁の色を隣接する水上警察交番の外壁タイル近似色とし、周辺環境に配慮しました。

窓およびルーバー部分で2Fを周回させることでデザイン性を持たせ、同様に軽快さを演出しました。



変更後

ロープウェイ支柱(5号柱)の色彩をグレーとし、周辺施設との調和を図りました。

変更後



変更前



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。

《 Plan-B 》



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。

《 Plan-C 》

Plan-Aに対し、2F部分の壁の色に赤味を加えました。



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。

《 Plan-D 》



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。

《 Plan-E 》

Plan-Cに対し、2F部分の壁の色を赤レンガ倉庫に近い色とし、
周辺環境に配慮しました。



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。

《 Plan-F 》 桜木町駅側駅舎と色彩的に統一感を持たせたグレー系も検討しています。



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。

《 Plan-A 》

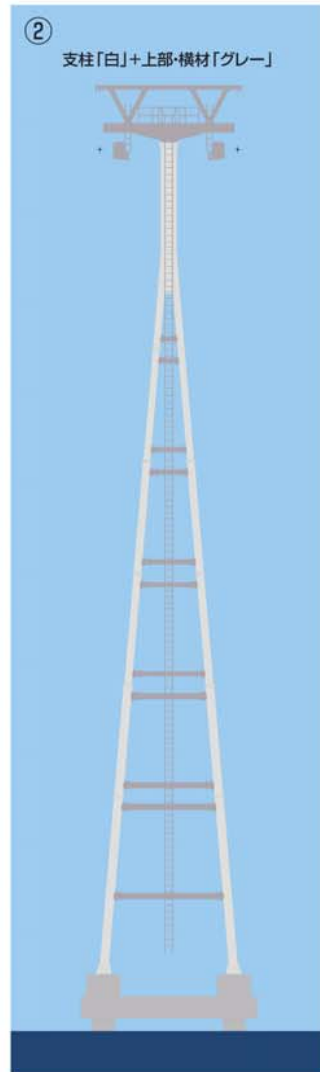
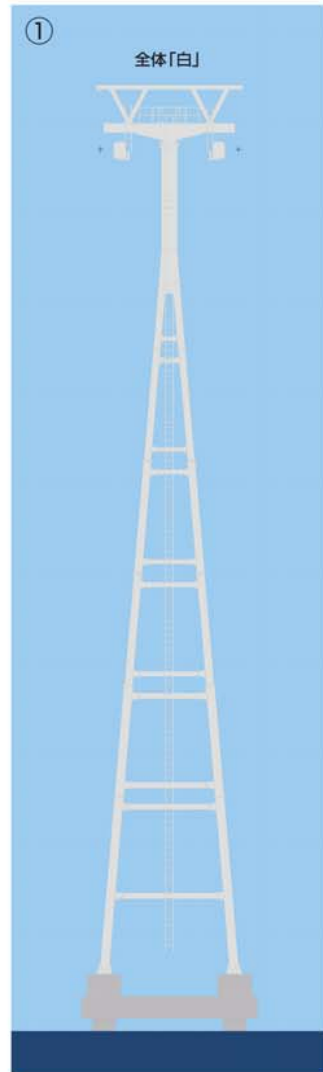


本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。

《色 彩》

色彩につきましては、周辺環境に馴染む「白」を基本とし、グレーから白に段階的に塗り分けすることで、できる限り目立たないように工夫し、景観を阻害しないよう配慮いたします。（下図③案）

※白の色は、汽車道のトラス橋に使用されている白（明るいグレー）の近似色を参考としています。

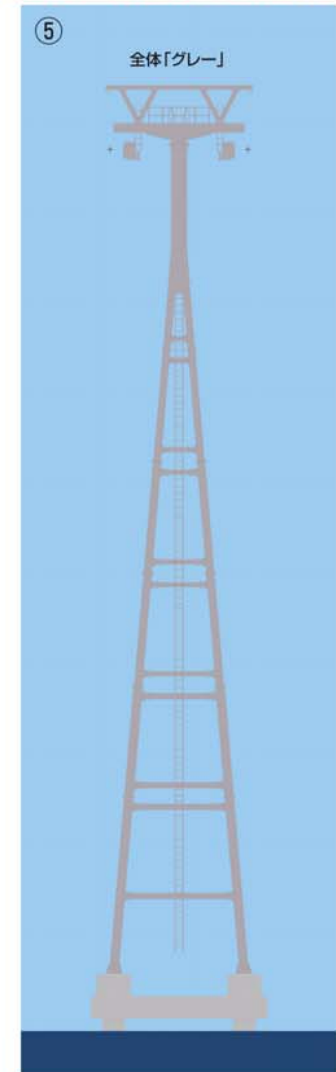


推奨色

2019.2.追加案



2019.3.追加案



【支柱基礎】

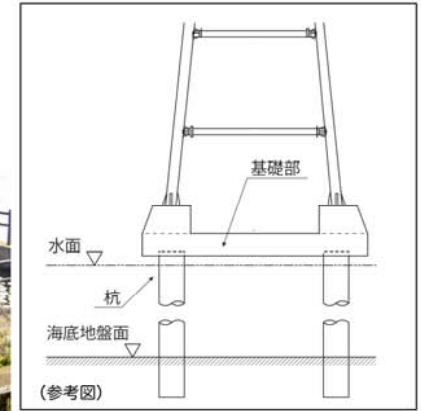
《支柱基礎の構造》

海上支柱の基礎構造は、鋼管杭を海底の支持層まで打ち込み、その上部に鉄筋コンクリート製の躯体構造物を作り、そのコンクリート構造物に支柱用のアンカーボルトを埋め込んだ構造としています。
基礎コンクリートの底盤は、以下の理由により海面のH.W.Lから10cm程度上がった高さになっています。

(理由)

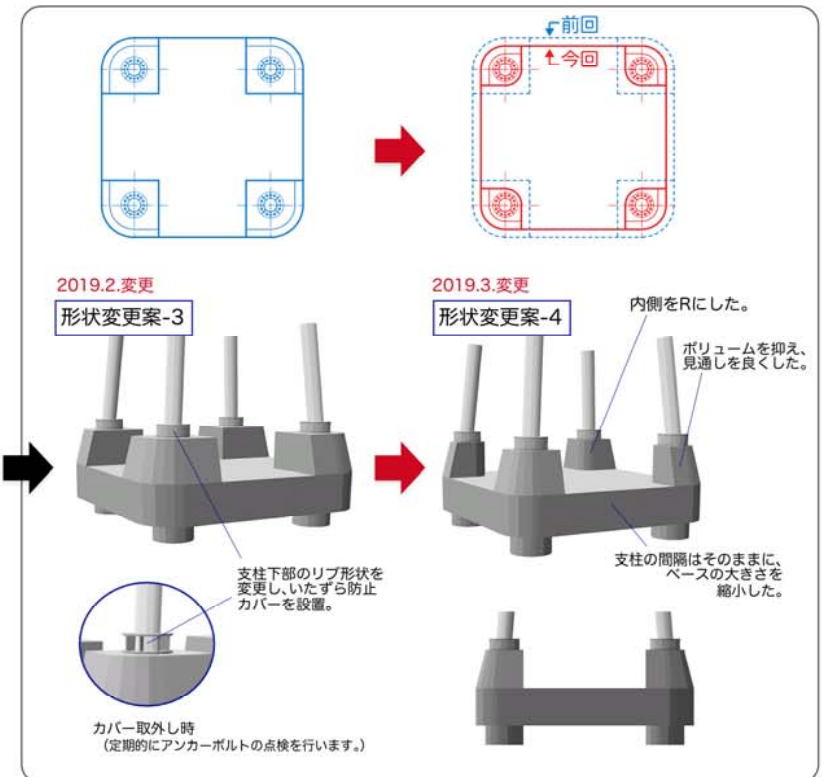
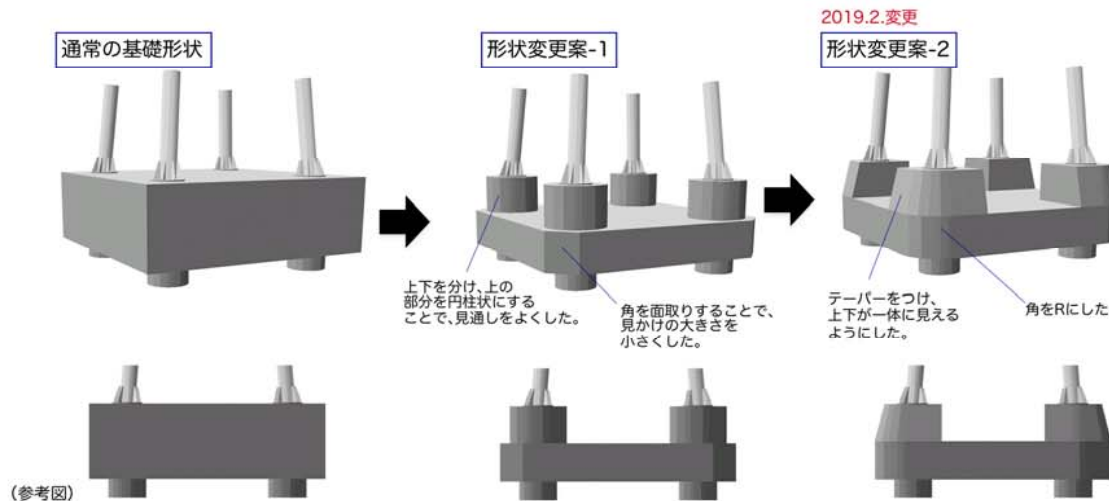
基礎躯体を海水に浸からない高さに設定することにより、常時ロープウェイからの振動を受ける鉄筋コンクリートにクラック等が発生しても、そこから海水が浸入して強度が落ちることのないようにしています。
また、このようにすることで点検時に杭と基礎の接合部を目視できる状態におくことができます。
基礎躯体を海水から分離することにより、波、潮流等の想定荷重以外の外力が直接基礎部分にかからないようにしています。
基礎躯体を水中に浸けないということは、海洋土木の常識とされており、防錆・安全面から他の事例においてもそのように施工されています。(右写真参照)

以上の理由により、右図に示すような構造にしています。



《基礎部形状の検討》

水上に設置される基礎部分については本来高さ2mあり、水域利用者の安全上好ましいものではありませんでした。
そこでベースとなる基礎と支柱部分の基礎に分け、できる限り基礎の高さを低く抑えるよう検討し、さらに形状を工夫することでデザインにも配慮した検討を行っています。



【ゴンドラ】

ゴンドラは世界的に知られたスイスの「CWA社」製を採用する予定です。

CWA社は1939年創業のスイスを代表する搬器メーカーです。
CWA社のゴンドラは世界各国に納入実績があり、スイスを中心にヨーロッパやアメリカなど、世界各国に向けて製品の輸出を行っています。
CWA社の製品は、安全性、信頼性において世界一と評され、日本国内においても多くの導入実績があります。

CWA社のゴンドラは、全面アクリルガラスによるスタイリッシュなフォルム(曲線を主体とし、フレームコーナーや外装にリベットやボルトが見えない美しいデザイン)となっており、都市部の景観にマッチしています。
その洗練されたデザインに加え、耐腐食性に優れたアルミニウム合金を本体に使っている点などの安全性、日本や世界各地で使用されている信頼性も踏まえ、今回の事業に最適であると判断し、採用することといたしました。



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。

《意匠・色彩等》

全面アクリルガラスとすることで、「エア感」のある透明感と軽やかさが表現されます。
色彩につきましては、異なるエリア間(中央地区～新港地区)を移動するため、モダンかつ環境と親和性が高いニュートラルな「白」を基調に考えています。
また、ゴンドラが上空を移動する際は、底部が歩行者からよく見えますので底部にグラフィカルなデザインを施すなど、下から見上げても楽しい工夫を行うとともに、ゴンドラの側面等には洗練された施設名のロゴタイプをあしらうなど、ゴンドラ全体のデザイン計画も行う予定です。



推奨色

ホワイト

また前述のように、「白」がモダンかつニュートラルで周囲の景観に親和するいわば「静」を表現するものという考え方と、一方で両エリア間を移動するゴンドラを「動」と捉え、活気あるみなと横浜の「海」をイメージさせる「ブルー」を基調にした色彩を採用することも一案として考えることもできます。



(参考色)

ブルー

(イメージ)

推奨色 (グレーから白への塗り分け) P17-③

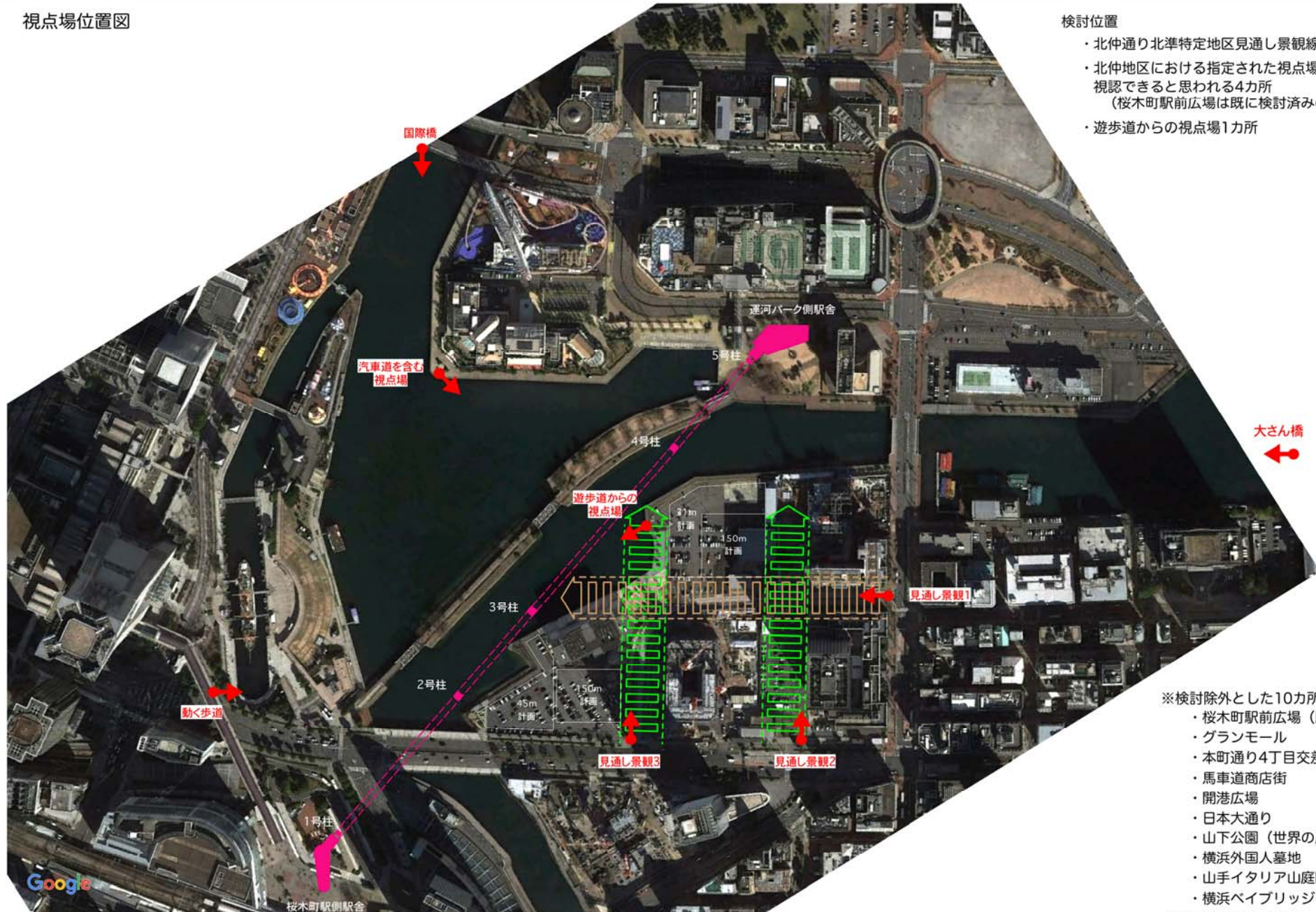


参考色 (白+上部・横材グレー) P17-②



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。

視点場位置図



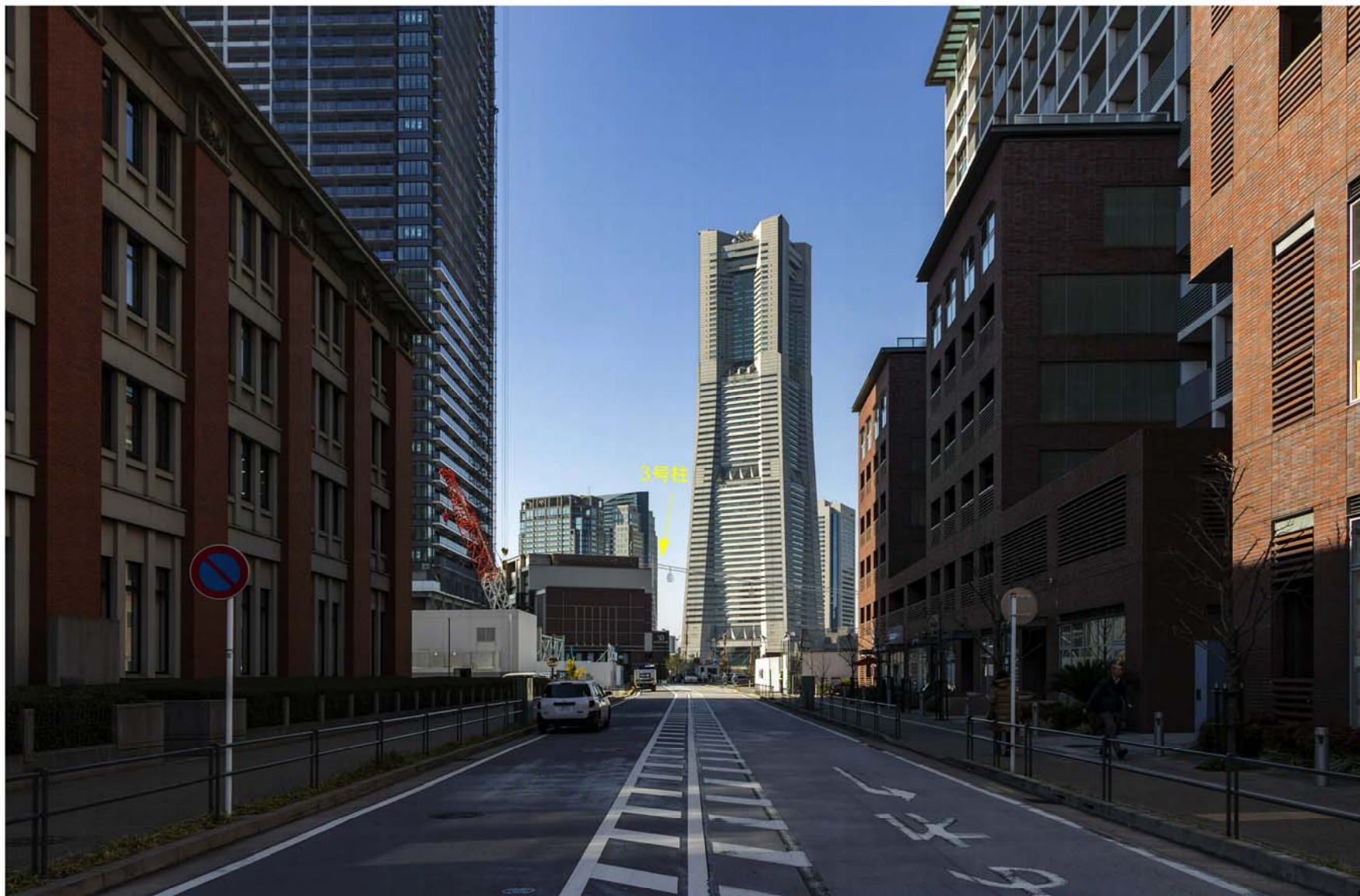
検討位置

- ・北仲通り北準特定地区見通し景観線より3カ所
- ・北仲地区における指定された視点場14カ所の内視認できると思われる4カ所
(桜木町駅前広場は既に検討済みのため除外)
- ・遊歩道からの視点場1カ所

※検討除外とした10カ所

- ・桜木町駅前広場 (既に検討)
- ・グランモール
- ・本町通り4丁目交差点
- ・馬車道商店街
- ・開港広場
- ・日本大通り
- ・山下公園 (世界の広場)
- ・横浜外国人墓地
- ・山手イタリア山庭園
- ・横浜ベイブリッジ

20190318北仲視点場位置図.jpg



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。



本図はイメージであり、計画の進行により実際の施設とは異なる場合がございます。